

絆

清水はやと ニュースレター KI-ZU-NA

さいたま市長
清水はやと
2014(平成26年)10月号

「しあわせ実感都市」「どらたま」へ

「2020年「住みやすい」90%へ」

「住みやすい」7.8%上昇

新しい3つの重点政策

さいたま市が「住みやすい」と考える市民は、市民意識調査によると、平成19年度の74.0%に対して、平成25年度は81.8%と6年で7.8%上昇している。

「住み続けたい」83.5%

平成25年度の調査で、さいたま市に「住み続けたい」と回答した市民は81.8%。横浜市の61.3%と比較して高い数値である。清水市長は、「このような数値は行政だけでなく、市民や各種団体、事業者の皆さんの活動や努力のおかげ。しかし一方、さいたま市の認知度は大都市と比べてまだまだ低い。人々が住みたい、企業が進出したいと思うような『選ばれる都市』になっていくために、さいたま市の強み、魅力をもっと発信して、都市イメージの確立とブランド力の強化を推進する」とした。

任期一期目の重点プランであった「しあわせ倍增プラン2009」と「行財政改革推進プラン2010」において、約9割を達成し実行力を発揮した清水市長。2期目は総合振興計画基本計画はじめ、「しあわせ倍增プラン2013」、「行財政改革推進プラン2013」をそれぞれリニューアルしたことに加え、新たに「成長戦略」を策定した(裏面に詳細)。

さらに清水市長は、「『住みやすい』』と聞いていただくためには行政だけではなく、市民の皆さん、事業者として行政と一緒にまちづくりを進めていく必要がある。3つの重点プランをフル回転させ、東京オリンピックが開催される2020年には、『住みやすい』と感じる市民の割合を90%以上になるようなまちづくりを市民や事業者の皆さんと一緒に進めていきたい」と数値目標を示して決意を語った。



プロフィール 昭和37年3月生まれ。日本大学法学部卒業後、(財)松下政経塾入塾(第7期生)。埼玉県議会議員(南6区)2期を経て、平成21年5月さいたま市長に当選。平成25年5月に得票数、得票率ともに大きく伸ばして再選。現在2期目。著書は、「2010年霞ヶ関物語」(共著/二期出版)「繁栄の法則」(共著/TBSブリタニカ)「犯罪のない安全なまちをつくらう」(共著/埼玉新聞社)「さいたま市未来創造図」(埼玉新聞社)。好きな言葉は「素志貫徹」(成功の要諦は、成功するまで続けるところにある)。2013マニフェスト大賞首長グランプリ受賞、共栄大学客員教授他。



指定都市を応援する国会議員の会に出席



姉妹友好都市の米國リッチモンドを訪問



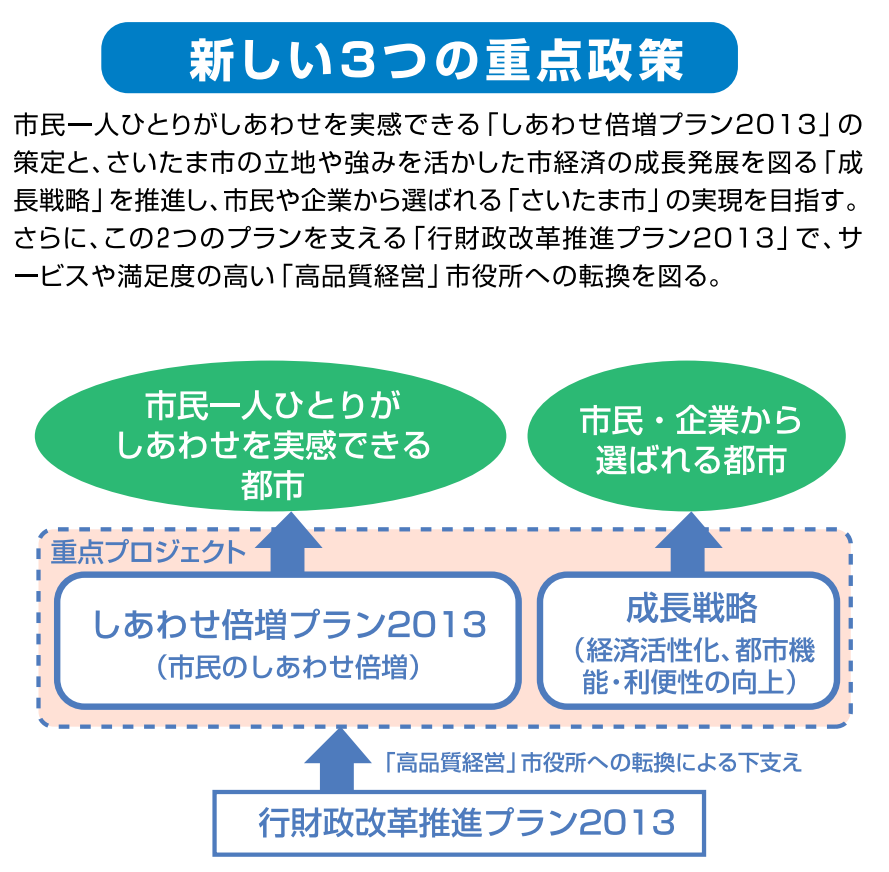
市職員と一緒にブラインドサッカーを体験



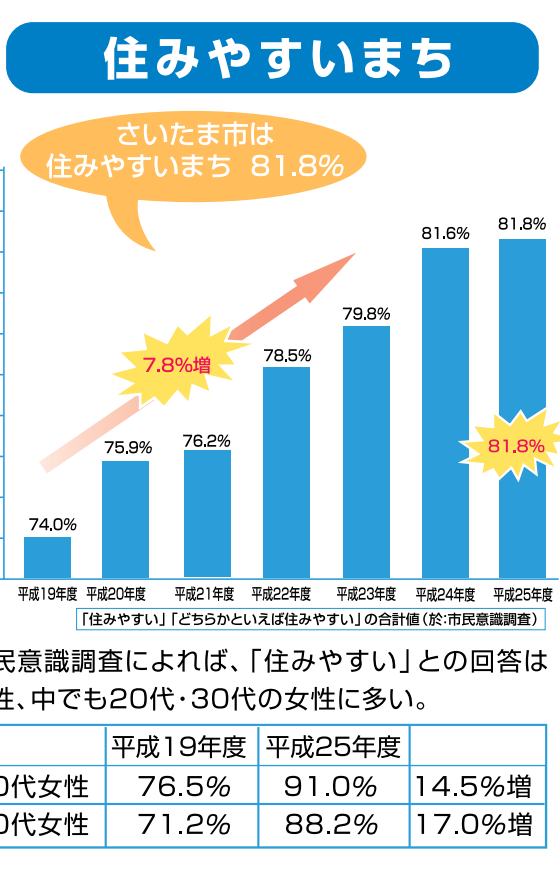
学校訪問で元気よくあいさつ



小松菜栽培農家への現場訪問



実現に向けて前進!
しあわせ倍增プラン2013
平成25年度から4か年計画で策定した新たなプラン。取り組む施策は10分野60項目111事業に及ぶ。
詳細は で



さらなる改革に挑む!
行財政改革推進プラン2013
「高品質経営」市役所への転換を図るため、「見える改革」「しる改革」「人の改革」で54事業に取り組む。
詳細は で



子どもたちと一緒に七夕飾り



サッカーを応援する自治体連盟を発足(会長就任)



ワールドカップのパブリックビューイング



鉄道ふれあいフェアのイベントに参加

市民や企業から選ばれる都市へ

さいたま市成長戦略

地域経済の活性化や都市の機能性、利便性の向上、都市イメージの向上などを図るため、7つのプロジェクトからなる「さいたま市成長戦略」に取り組む。

目標数値

◆市内総生産

《現状値》0.8% → 《目標値》2%程度
(H22年度) (H25~32年度の平均)
市内総生産の実質成長率2%を目指す。

◆生産年齢人口(定住人口)

《現状値》79.7万人 → 《目標値》80.5万人
(H32年の将来推計値) (H32年)
総合振興計画の将来推計値より8,000人増を目指す。

◆鉄道乗降客数(交流人口)

《現状値》179万人/日 → 《目標値》185万人/日
(H24年度) (H32年度)
一日あたりの市内の鉄道乗降客数185万人を目指す。

7つのプロジェクト

民間活力、企業の力を活用しながら、スピーディーに経済の活性化を図るために7つのプロジェクトを推進する。

①国際観光都市戦略
「さいたまMICE(まいす)」

②スポーツ観光・産業都市戦略

③医療ものづくり都市構想

④環境技術産業の推進

⑤東日本の中枢都市構想

⑥広域防災拠点都市づくり

⑦戦略的企業誘致と国際展開支援

各プロジェクトは、平成25年度から4年間(平成28年度まで)を目安に、東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される平成32年(2020年)を視野に入れて推進する。産学官のさまざまな実施主体で、中長期的・持続的な成長につながるための幅広い施策を展開する。

詳細は で

特集-1-

東日本の中枢都市構想

~~交通インフラの拡充~~



(※図はさいたま市ホームページ)

●広域高速道路網の拡充

- ①新大宮上尾道路→圏央道までの北進
- ②首都高速埼玉新都心線→東北道までの東進

●空港とのアクセスの強化

- ①羽田・成田空港へのバス・鉄道アクセスの拡充
浦和駅・武蔵浦和駅→羽田空港バス路線開設
- ②新潟・茨城空港へのアクセスの新設

●大宮駅のハブステーション化・鉄道結節機能の強化

- ①高速鉄道東京7号線の延伸促進
- ②新幹線の始発の新設・大宮駅機能の高度化
- ③LRT(東西交通大宮ルート)の新設
- ④長距離バスターミナルの設置

CO₂の削減、交通渋滞の解消、健康の増進、スポーツのまちづくりと地域経済の発展に

特集-2-

スポーツ観光・産業都市戦略

さいたま自転車まち構想
~~環境と健康のまちづくり~~



●自転車ネットワーク構築
安心・安全な自転車通行環境を10年間で200km整備

●全小4児童に子ども運転免許
子ども自転車運転免許制度や交通安全教室の拡充、ルール遵守の徹底

●コミュニティサイクル
公共交通手段として市内20か所にサイクルポートを設置

ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム開催!!

2014年
10月25日
開催決定!!



今年もまた、さいたま新都心に「ツール・ド・フランス」がやってきます。自転車のまちづくりのシンボルイベントとして注目され、世界中に「さいたまブランド」を発信します。

2013年度
の概要

- ・来場者数:約20万人
- ・経済効果:約30億円
- ・世界100か国以上に配信



●駐輪場の整備

自転車等放置禁止区域の指定、民営自転車等駐輪場建設補助、駐輪場案内システム



さいたま市をマスコミも他自治体も大注目!

「大宮◎人気急上昇 浦和高級感強調」とH24.7.2朝日新聞夕刊1面で報道!

~来春、上野東京ラインや北陸新幹線が開業し、交通の便がさらに良くなり発展するさいたま市~

公共施設マネジメント計画やノーマライゼーション条例など、さいたま市の施策に対する取材や視察多数!

<障害のある人もない人もともに暮らす都市>政令市全国初ノーマライゼーション条例制定

<健全財政NO1>

1人当たりの市債残高政令市全国最小(1位)(H24年度普通会計決算)

<市民目線の業務改善活動>

職員改善提案活動1万件超(H25年度)

<情報公開NO1>

情報公開全国1位(同点)(2012年全国市民オンブズマン連絡会議調べ)

<絆>

学校安全ネットワーク、チャレンジスクール全小中学校配置

男性世界最高齢+政令市健康寿命3位

~健康で長生きできる都市へ~

さいたま市は政令指定都市の中で「健康寿命第3位」という健康長寿のまちです。市では高齢者が健康でいきいきと暮らせるよう、介護予防や健康維持のためのさまざまな施策に積極的に取り組んでいます。

さいたま市の主な高齢者政策(抜粋)

- ・敬老会等への補助金交付
- ・敬老祝金の贈呈
- ・入浴サービス(浴場利用券の交付)
- ・シルバーカードの発行
- ・シルバー元気応援ショップ
- ・介護ボランティア制度
- ・介護保険サービス
- ・シニアサポートセンター(地域包括支援センター)
- ・重要度介護高齢者に対する支援
- ・ひとり暮らし高齢者に対する支援
- ・安心コールセンター(緊急通報機器の設置)
- ・ふれあい会食サービス
- ・在宅高齢者等宅配食事サービス
- ・高齢者向け賃貸住宅
- ・ふれあい収集(家庭ごみの直接収集)など



◆111歳の世界最高齢男性に認定された、さいたま市在住の百井盛さん。お祝いに駆けつけた清水市長と懇談。

